

イントである。

(1) 創業者の利便性を重視し、13の構成メンバーによって全地域を網羅し、「くらしき創業サポートセンター〇〇（地域名または機関名）」という統一名称にした結果が思惑通り作用していること

(2) 計画どおり次の支援内容が実施されていること

- i 「創業相談」→「起業塾」→「市の創業補助金」→「創業融資」→「許認可支援」→「創業後フォロー」という、ネットワークが意図した窓口支援段階から個別支援に移る支援の提供
- ii 補助金、制度融資、金融機関プロパー融資、日本政策金融公庫融資、同公庫と地元金融機関による協調融資という、資金調達における多くの選択肢の提供
さらにネットワーク間で毎月サポートセンター会議を開催し、現場レベルでも活発な交流が持たれている。

こうしたコミュニケーション上の工夫は、3年間の取り組みの中で試行錯誤を伴いながら培われてきたものであることに触れておきたい。

同じ流れに沿った 支援で域内の創業を くまなく支援

今回、域内くまなく創業支援を行うという目標を、提供する支援方法や組織形態を統一することによって実現しようとする同市のネットワークの試みは新鮮であった。

今後も、地域・業種を深掘りす

るような支援スキームが追加されるなど、更なる発展性が期待されるので、引き続き同ネットワークの動向に注意を払っていきたい。

と同時に、域内人口の違いなどを問わず、他の地域のネットワークにとっても、支援の流れやネットワークの名称を統一するなど、ネットワークの活動に一体性を持たせるといった考え方は活用可能という印象を受けた。

そして、自地域において創業希望者に対し、公平な支援環境を提供するという考え方は、ネットワークとしての一つの考え方として参考になるという感想をもった。